

令和6年度 マダイ日本海西部・東シナ海系群資源評価会議  
議事概要

日程：令和6年7月31日（水） 10時～12時

会場：水産研究・教育機構長崎庁舎大会議室 + MS teams オンライン会議

参加者：外部有識者、資源評価参画機関（以下、参画機関）、水産研究・教育機構（以下、機構）

### 概要

令和6年度マダイ日本海西部・東シナ海系群の資源評価（案）について、参画機関を代表して機構担当者より説明を行い、その内容について協議した。会議出席者による検討・議論の結果、公表に向けて体裁などの修正を行うものの、資源評価結果として承認された。

- ・ 令和6年度マダイ日本海西部・東シナ海系群の資源評価（案）についての議論

機構担当者より、参画機関を代表して資源評価報告書（案）の説明を行った。

#### 《主な議論と結果》

- ・ 本評価における生物特性値および年齢別漁獲尾数の算出方法については、前年度に引き続き見直しが必要であるという共通理解はあるものの、現状ではその改訂にむけて整理を行っているところなので、昨年度と同じ設定を用いて行った。
- ・ チューニング VPA の指標値として、昨年度と同様に島根県の大型定置網の標準化 CPUE を用いた。そのほかの漁業種の指標値についても、今後整理していくことが必要であるとの説明がなされた。この点について、外部有識者および機構内参加者からも指摘があり、議論した結果、来年度に向けて検討するべきだとの指摘があった。
- ・ 外部有識者より、標準化 CPUE の改善を今後も行うことが大切であるとの指摘があった。漁獲ゼロの操業データの取り扱いについて質問があり、担当者から割合としては多いので今後改善を行うことの説明があった。
- ・ 外部有識者より、年齢別漁獲尾数の算出方法についても改善をするべきだとの指摘があった。担当者から改善に向けて進めていることの説明があった。
- ・ 外部有識者より MSY を目標とするのか、1～6歳魚の漁獲量を最大する親魚量を目標とするのかの議論を丁寧に残すべきだとの指摘があった。
- ・ 参画機関より、生物特性の改訂についてもするべきだとの指摘があり、今後参画機関と協力しながら進めると説明があった。
- ・ 外部有識者から将来予測の選択率についての質問があり、最高年齢の漁獲死亡係数を1としたときの各年齢の比であることが説明された。
- ・ 外部有識者より、Mを変えた時の YPR や SPR の感度解析をするべきだとの指摘があっ

た。

- ・ 参画機関より、グラフの色の修正依頼があり修正することとした。
- ・ 参画機関より、データを見直すと資源評価の結果が変わることも想定され、その場合管理目標値が変わる場合についての質問があり、管理目標値が大きく変わるような場合の最終的な判断は水産庁だろうがステップ3に入る前に確認があることが説明された。
- ・ 参画機関より、各ステップの期間について質問があり、最短で各1年だろうが研究機関として丁寧に対応したい旨の説明があった。
- ・ 参画機関より、次のステップに移行するタイミングについての質問があり、最終的な判断は水産庁がされるだろうと説明があった。
- ・ 以上の議論を踏まえて、提案された資源評価（案）は承認された。

有識者講評：

- ・ 前日のブロック会議に続きマダイの会議の議論を聞いて、チャレンジングな課題がある魚種だと思われた。資源評価と管理および漁業者それぞれの課題を乗り越えることができれば、大きな金字塔になるように思われた。
- ・ データを見直すと管理基準値が変わることについてもやや違和感を持つところだが、フィードバック管理のように操業とモニタリングを繰り返しながら管理目標値を徐々に見直すことで管理を進めることもできるだろう。
- ・ 多魚種を漁獲対象とする漁業の場合、すべての魚種でMSYを目指すような管理を導入すると漁業が立ち行かなくなる可能性もあるので、生態系リスク評価のような考えも取り入れたらどうだろうか。そのなかで食料的に重要な魚種についてはMSY管理を目指し、漁獲量が少ない種については漁業が重篤な悪影響を及ぼすリスクを回避することを担保した管理でもよいかもしれない。
- ・ 取り組むべき課題は多いが、皆様のご協力で進めていただけたらと思う。
- ・ 計算結果はわかりやすく丁寧に説明をしていただいていたので良かった。今年の冬から小型浮魚類の話題などが多くあり、ほかの魚種について影響があるかと思い注目してきたが特になかったので安心した。今後も引き続きよろしくご対応をお願いしたい。